

神戸新聞 2022年03月14日 月曜日 面名 ター社 タ4 11ページ

名前【 】

①国鉄時代に製造されたディーゼル列車「キハ40形」が再出発したのは、何市と何市を結ぶ何鉄道ですか。

②「キハ40形」は、東北地方の何線で何年間活躍しましたか。

③JR時代のままのデザインが残された「キハ40形」はどのような色ですか。

④車内に当時のまま掲示されているのは何ですか。

⑤今回、運行するのは何駅と何駅間で、1日最大何往復する予定ですか。

⑥「キハ40形」の歴史について調べてみよう。

お待ちせ「キハ40形」再出発



東北で引退、北条鉄道が導入

国鉄時代に製造されたディーゼル列車「キハ40形」が13日、加西市と小野市を結ぶ北条鉄道で再出発した。かつて東北地方で走行していた白地に青の車両は、老朽化に伴い多くが引退。希少となった列車を同鉄道が譲り受け、再び汽笛を鳴らした。

1979年に製造され、約40年間、JR東日本五能線（秋田県・青森県）を運行した同車両は昨年3月に引退。朝夕の増便のため新たな車両を求めていた北条鉄道が購入した。白地に3本の青線が入ったJR時代のデザインは変えず、車内に掲示された東北地方の路線図も残した。

13日は式典に続き、午前11時9分の第1便から計3便が特別運行。事前に申し込んだ計108人が乗車し、約50分をかけて北条町駅から粟生駅（小野市）までの単線13・6キロを往復した。神戸市垂水区の安田啓志さん（26）は「五能線は自然豊かで憧れの路線。親しみがある北条鉄道で乗れるのはうれしい。直角の座席に歴史を感じる」と笑みを浮かべた。

定期運行は16日から始まり、北条町―粟生間を1日最大17往復する予定。

（敏隆潤子）